蒲郡市の地域包括ケアシステムと在宅医療・介護連携

1)蒲郡市の地域包括ケアシステム

蒲郡市では、平均寿命の延伸や団塊の世代の高齢化、さらには少子化が加わり、今後、医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれています。そうした中、医療・介護の提供体制の整備を進めるとともに、生きがいを持ちながら健康に過ごすために介護予防を推進していく必要があります。

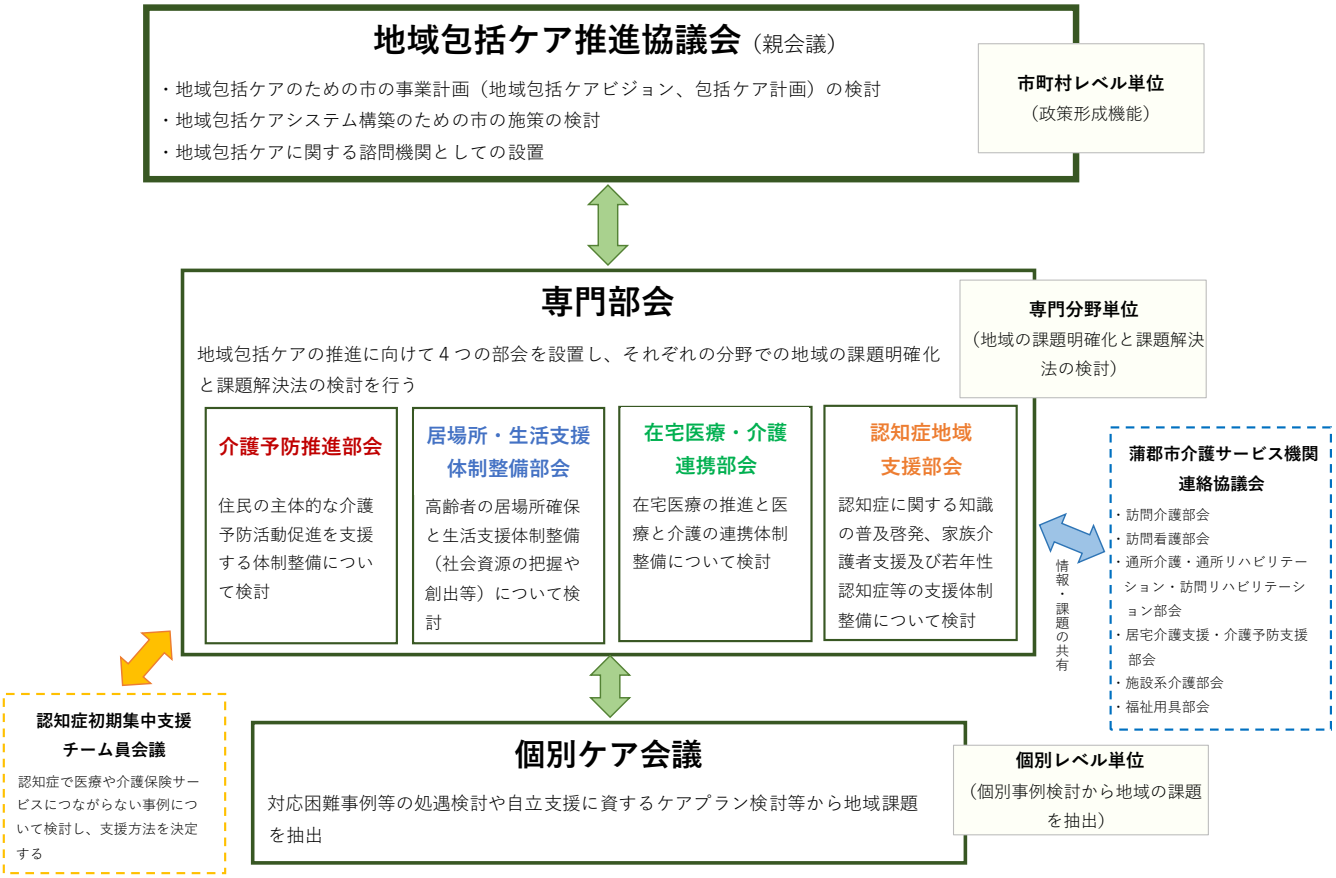
一方で、高齢者人口の増大や単身高齢者世帯、認知症高齢者の増加などにより、医療や介護ニーズ、日常の生活支援に対するニーズが増大しています。しかしながら、生産年齢人口は減少し、担い手の不足が見込まれるため、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年(令和 7 年)に向けて、介護予防・生活支援・介護・医療・住まい、この 5 つの要素が連携しながら、住み慣れた地域で、自分らしく、安心して暮らし続けることができるよう地域全体で高齢者を支える地域包括ケアシステムを深化・推進していく必要があります。

出展:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング「地域包括ケア研究会」報告書より

2)蒲郡市地域包括ケア推進協議会

蒲郡市では、地域包括ケアシステムの構築・推進のため「地域包括ケア推進協議会」を設置しています。その中に4つの部会「介護予防推進部会」、「居場所・生活支援体制整備部会」、「在宅医療・介護連携部会」、「認知症地域支援部会」を設け、それぞれが連携しながら事業を実施しています。

＜蒲郡市地域包括ケア会議体系(一部)＞



3)蒲郡市の在宅医療・介護連携

介護を要する高齢者数や高齢者のみの世帯数が増加傾向の中、今後、在宅でも適切な医療と介護を受けられる体制を整備していく必要があります。そのためには、医療と介護の関係職種が、互いに顔の見える関係をつくりながら連携を強化していくことが重要です。

医療や介護が必要となっても、いつまでも住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、医療と介護のサービスを切れ目なく一体的に提供するために、医療機関と介護事業者等の関係者の連携推進を図ります。

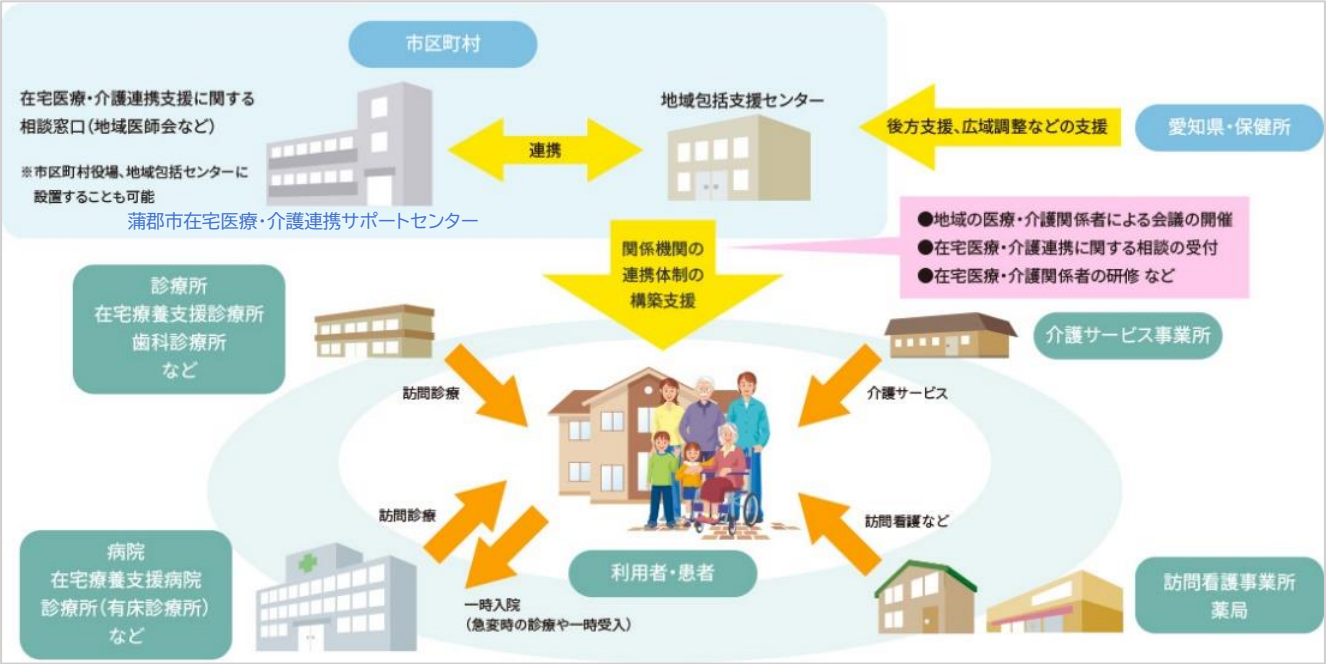
また、市民が在宅医療に関する理解を深め、医療・介護サービスなどを利用することにより在宅療養が可能であることを理解できるよう、普及啓発に努めます。さらに、個人が望む医療や介護を選択できるよう、本人の意思決定を支援するとともに、その実現に向けて関係機関が連携して支援します。

誰もが住み慣れた場所で安心してその人らしく暮らし続けることができる体制を構築するために、こうした取り組みを総合的に実施していくことが求められます。

4)在宅医療・介護連携推進事業（在宅医療・介護連携サポートセンターの設置）

蒲郡市では、平成30年4月より、在宅医療・介護関係機関の連携の強化に取り組む拠点として、「蒲郡市在宅医療・介護連携サポートセンター(愛称:がまほっと)」を蒲郡市と蒲郡市医師会の協働運営にて、市役所長寿課内に設置しました。地域における医療・介護の関係者が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護が提供できるよう、関係多職種等と連携をとりながら在宅医療・介護連携推進事業を進めていきます。

＜在宅医療・介護連携全体図＞



【出典・引用】愛知県医師会ホームページ（在宅医療・介護連携推進事業）より